

2015年12月24日(木曜日)

マルシェ 50店舗出店

来年11月開催 オーガニックライフスタイルEXPO

生産者と消費者の交流に

オーガニックフーズ・オーガニックジャパンは8日、都内で第1回「オーガニックライフスタイルEXPO」の開催説明会を開催した。

冒頭、徳江倫明会長は、「大地を守る会で学んだこと、売る者でもそのような志向がとほ、売る者もまず伝え、増えてきており、行き着く

先がオーガニックなどである。オーガニックの6〜7割は店頭で売られているので、増えてくる可能性がある。来年11月18日・19日に開催する『オーガニックライフスタイルEXPO』の企画・運営でも、伝えることとに主眼を置き、B to Bだけでなく、消費者にも来場してもらおう。マルシェも約50店舗出店し、生産者と消費者の交流の場となるよう進めて行く」と述べた。

続いて、「有機農業の日」委員会事務局の高橋勉氏は、「12月8日が『有機農業の日』として記念日登録された。来年12月8日は有機農業推進法10周年に当たり、それに向けて様々なイベントを展開していく。オーガニックフーズは多分来る」と述べた。

記念セッションで、大地を守る会・藤田和芳社長は、「高度成長の次の時代を模索している頃、大地を守る会は誕生し(75年)、江東区の大島団地で無農薬野菜を販売することから始

まった。3・11は原発に象徴される豊かな社会・文明を問い直す契機となった。コンビニで有機野菜を売るようになったが、スローライフやロハスなどは若者に訴求力があり、これを活用してオーガニックを広めていく。」

アバンティ・渡邊智恵子社長は、「日本人が持つ感性を理解して世界に発信していくこと。有機農産物をコンビニで買うことは、環境を守る最大の方法、フアッションジャーナリスト・生駒芳子氏は、「エコやエシカルを考えて物を買うことは、実はラゲジュアリーなこと」と述べた。